

今週のメニュー

■トピックス 1

◇2017年 子どもとためす環境まつり -9年連続参加-

■トピックス 2

◇安全操業を目指し、第30回VEC合同保安会議開催

■編集後記

■トピックス 1

◇2017年 子どもとためす環境まつり -9年連続参加-

9月23日(土、祝)に中央区立有馬小学校で行われた「2017年 子どもとためす環境まつり」※1)に参加・出展しました。塩ビ工業・環境協会(VEC)の参加は、今年で9年連続となります。



開会の挨拶

※1) 主催：中央区環境保全ネットワーク、共催：中央区、中央区教育委員会、後援：環境省関東地方環境事務所、東京都環境局、東京商工会議所中央支部、社会福祉法人中央区社会福祉協議会、その他40の企業・団体が協賛し、有馬小学校PTA、築地警察署、東京カレッジ・オブ・カイロプラクティックが協力、中央区立の小学校8校が参加。

この「子どもとためす環境まつり」は、中央区環境保全ネットワークが子どもたちや地域の方々に環境問題についてより理解を深めてもらうことを目指し、次世代へ向けた体験学習型イベントとして行っているもので、今年で14回を数えます。VECは「NPO法人持続可能な社会を作る元気ネット」と共同で参加したことを契機に、この活動に共感し、環境学習の応援として参加しています。

VECブースでは、塩ビをはじめ石油化学製品が製造される際にCO₂を発生するものの、それ以上にCO₂を減らす製品の材料として役立つことをアピールすると共に、塩ビ製品として、断熱性能に優れ省エネに貢献する樹脂窓や、熊本地震被災支援のために設けられた「塩化ビニル管・継手リサイクル処理補助制度」の下で、現地で回収された塩ビ管を使用して製造されたりサイクル塩ビ管(「くまモン」シール付き)などを展示し、会場を訪れた方に塩ビ製品の良さをご確認いただきました。





VECブース
（「サバンナの動物たち」
組み立ての様子）

また、子どもたちに対して、昨年好評であった硬質塩ビを使った海の生き物たちのセットシートの第二弾として、サバンナの動物たちのセットシート（ライオン、キリン、象、カバ）を準備し、VECブースにて組み立てて頂きました。今年は低学年の子どもが多かった為、比較的組み立てに苦労している子どもが多かった様に思いましたが、親御さんとの共同作業により、次々と動物たちを完成させていました。今年はVECブースに昨年を上回る200名を超える子供たちが訪れ、盛況のうちに終わりました。

また、今年は「子どもとためす環境まつり」をサポートするサーモンプロジェクト^{※2)}の子ども達が各ブースの取材を行うこととなっており、当ブースにも訪れました。「プラスチックはどの様なところに使われますか？」など、子どもの視点で取材をして頂きました。

今年の「子どもとためす環境まつり」は、前日から雨が降り続き、当日も直前まで小雨が降っていましたが、開催と同時に晴れ、沢山の子ども達に参加して頂けました。

お世話をされた実行委員会の方々の努力で今年も無事に終えることが出来ました。感謝致しますと共に、今後とも、この地道な活動を応援していきたいと思えます。

※2) 成長した鮭（サーモン）が生まれ育った川に戻ってくるように、中央区で育った子供がいろいろな経験を通して成長し、大人になって中央区に戻り、活躍してほしい、中央区を活性化してほしいという願いが込められたプロジェクトとのこと（主催：中央区環境保全ネットワーク）。

■トピックス 2

◇安全操業を目指し、第30回VEC合同保安会議開催

塩ビ工業・環境協会では毎年、塩ビ製造工場の安全操業を目指し会員企業全社、全事業所からの参加を得、合同の保安会議を開催しており本年は第30回の節目を迎えました。

会議は7月6日～7日静岡県浜松市で開催され、弊会会員会社の8社（塩ビモノマー製造6工場、塩ビ樹脂製造11工場）より21名が参加、各工場より製造に携わるスタッフ、管理職等が参加しました。

ご承知のように化学産業は装置産業で、一度、事故を起こしてしまうと大惨事になりかねず、従業員の生命が危険に晒されるばかりでなく周辺の住民の方たちにも多くのご迷惑をおかけしてしまうことになりかねません。中で働く従業員は日々、如何に事故を起こさずに安全な操業を行い安定した製品を供給するかに心を砕いていますが、業界全体として同業他社の同じ立場の人との交流や情報共有はなかなかできないのが現状で、本会議は同じ立場の同業他社が一堂に会し安全を切り口に情報交換、技術交流ができる唯一の場として長年に亘り開催してきています。

日本は各社エチレン法と呼ばれる製法により塩ビを製造しておりその原理は同じですが、製造プロセスは各社各様で全く同じ土俵という訳には行きません。しかし、製造設備がかなりの年月を経ていること、その操業には周到なメンテナンスが必要なこと、DCS（分散制御システム）化により少人数でプラント操業をしていること、世代交代をスムーズに行うこと（若手社員の育成）は各社に共通する課題です。それぞれの課題を他社はどのように行っているか？など、情報交換や技術交流を通じ、相互に啓蒙しレベルの向上を図るきっかけとなることは各社にとっても業界にとっても大事なことと考えています。

会議は毎年、ヒヤリハット事例の発表と情報交換、グループ別分科会を中心に進められていますが、参加者は毎年異なっており、ほとんどの参加者が初参加で同業他社の同じ立場の人たちとの交流は初めてです。会議を通じ知り合い、交流が深まることによって会議での2日間にとどまらずその後の交流に繋がることも本会議の大きな意義の一つと考えています。



集中した議論が交わされた分科会



活発な意見交換が行われた
グループ討議

塩ビ業界は化学業界の一員として、今後も業界全体の安全操業を目指し本会議を通じて会員各社の意識の向上、技術の向上に寄与し社会貢献ができることを願っています。
ご安全に！

■ 編集後記

出張でつくば周辺に出掛けの際に筑波山を見て、登山をやっていた頃のことを思い出し、その週末に筑波山登山を行いました。日頃の行いが良かった為か、快晴の中での登山となりましたが、体に対する行いは悪かったのか、体には厳しい山登りでした。

ただ、頂上にたどり着いてしまうと、苦しかったことも忘れ眺めにひたってしまいました。1時間30分程度の比較的短い登り道で、これほどの眺めが得られるのは、お得な山だと思います。今後は、他の東北の山を登りたいと思いましたが、まずは体に対する行いを改める必要がありそうです。（体力のない登山愛好家）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)





■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp
